

KIRIN R&D DAY 2025 を5年ぶりに開催 持続的成長に向けたR&D戦略を発表

キリンホールディングス株式会社（社長 COO 南方健志、以下キリン）は、2025年12月17日、キリングループの研究開発をテーマとしたイベント「KIRIN R&D DAY」を5年ぶりに開催^{※1}しました。

当日は、酒類・飲料・ヘルスサイエンス・医薬の各事業領域における研究開発（R&D）の過去・現在・未来を発表。発酵・バイオ技術を活用した事業ポートフォリオの構築や、各領域でのR&D成果事例、社会課題解決に向けた今後の取り組みを紹介しました。さらに、持続的成長と企業価値向上を目指すグループの方針や、事業成長にともなうキャッシュの再投資による好循環の創出など、キリングループの未来に向けた考えも発表しました。

※1 当日の資料や動画はこちらより参照ください [KIRIN R&D DAY 2025 | IRイベント資料（機関投資家向け）](#) | [KIRIN - キリンホールディングス株式会社](#)

1.キリングループの持続的成長を支えるR&D戦略の実行

代表取締役社長COO南方健志より、酒類・飲料・ヘルスサイエンス・医薬の事業基盤を整え、発酵・バイオ技術をコアコンピタンスとした事業ポートフォリオの構築が着実に進んでいること、並びにキリングループの成長戦略におけるR&Dの重要性を説明し、2023年度・2024年度に2年連続で過去最高益^{※2}を達成した背景にR&Dを軸としたイノベーションの積み重ねがあったことを示しました。R&D投資の継続的強化による事業成長を実現し、それにともなうキャッシュを組織能力に再投資することで、持続的成長と企業価値向上の好循環を生み出す方針や、今後もイノベーションを加速させ、社会課題解決と収益性向上の両立を目指す考えを説明しました。

※2 事業利益。なお当社は国際会計基準移行に伴い、日本基準の営業利益の概念として本業の儲けを示す「事業利益」で開示しています。

2.研究開発費約1.5倍に拡大、グローバル課題に挑戦

常務執行役員(R&D戦略担当・R&D本部長) 藤原大介は「日本企業の枠を超え、発酵バイオ技術やAI創薬など先端技術で世界の社会課題に挑みます」と述べました。生物資源の確保や感染症リスク、高齢化社会、アンメットメディカルニーズなど多様な課題解決に向け、キリングループR&Dの力を結集。2035年までに研究開発費^{※3}を2024年比で約1.5倍に拡大し、R&D投資としては2026年には山口県にある微生物科学技術研究所へ35億円を投資する計画も明らかにしました。研究者個人の技能と発想を最大限発揮できる環境づくりにも注力し、基礎研究を重視して社会に新たな価値を届ける姿勢を強調しました。

※3 食・ヘルスサイエンス領域における研究開発費（協和キリンの研究開発費を除く）



代表取締役社長COO 南方健志



常務執行役員 藤原大介

3.次世代スター研究員発表

医・食・ヘルスサイエンスの3領域から注目度の高い最新の研究について、次世代スター研究員より発表を行いました。

1) KHK4951（Tivozanibのナノクリスタル点眼剤）

協和キリン株式会社 堀田晋也

キリンの医薬研究から生み出された低分子医薬品tivozanibを有効成分としたナノクリスタル点眼剤の開発。滲出型加齢黄斑変性・糖尿病黄斑浮腫患者さん向けの非侵襲的治療の確立を目指し日米で臨床試験を実施中。

2) 創薬DX基盤を活用したAI機能性シミュレーション

キリンホールディングス株式会社 ヘルスサイエンス研究所 野木村大

AI機能性シミュレーションによる食品素材の効果予測。シチコリンをターゲットに腸脳関連の新メカニズムを発見、海

外市場向けの製品開発へ展開。

[世界初！キリンと富士通、創薬DX技術を活用し、AIと実試験でシチコリンの腸脳作用メカニズムを解明 | 2025年12月17日](#)

3) L.ラクティス プラズマのグローバル展開に向けた研究開発

キリンホールディングス株式会社 ヘルスサイエンス研究所 平本絵美莉

L.ラクティス プラズマの臨床試験を豪州で実施。世界市場への感染症対策素材としての展開に向け、各国の規制に対応した有効性エビデンスの取得を目指す。

4) 免疫の見える化と免疫ケア啓発への取り組み

キリンホールディングス株式会社 ヘルスサイエンス研究所 加藤悠希子

免疫の見える化技術を開発。尿検査による免疫状態把握サービスを推進し、社会全体の免疫ケア^{※4}習慣化を目指す。

※4 規則正しい生活・バランスの良い食事・十分な睡眠・適度な運動など免疫を意識した健康的な生活習慣を行うこと

5) キリン独自の嗜好AI“FJWLA”の開発とビール香味開発の高度化

キリンホールディングス株式会社 飲料未来研究所 藤原優人

おいしさに寄与する香味成分を特定するAI「FJWLA」を開発。ビールの中味開発を高度化し、高嗜好度商品を創出、AI 活用による競争力を強化。

[ビールの香味成分を特定する嗜好AI「FJWLA」を独自に開発 | 2025年12月15日](#)

[キリンと日立、嗜好データとAIを活用した共同研究を開始 消費者の飲料選択や飲酒行動の要因を解明し商品開発や健康増進への貢献を目指す | 2025年12月17日](#)

4.特別鼎談：抗老化研究とキリングループの取り組み

東海大学 医学部 教授 西崎泰弘

株式会社ファンケル ファンケル総合研究所 所長 寺本祐之

キリンホールディングス株式会社 ヘルスサイエンス研究所 研究開発ユニット長 平田潤

特別鼎談では、抗老化研究の最新動向や社会実装の可能性について活発な意見交換が行われました。ファンケルが発見したキンミズヒキの老化細胞除去作用や、キリンが着眼した麴由来成分「14-DHE(麴ステロール)」の肌の水分量の維持・向上作用など、先進的な研究成果が紹介され、登壇者間でその社会的意義や今後の展望について議論が深まりました。キンミズヒキは多様な機能素材として、14-DHEは美容・健康分野での応用が期待されており、発酵・バイオ技術を活用した新素材開発が高齢化社会の課題解決や新市場創出にどう貢献できるか、多角的な視点から語られました。



(左より)

ヘルスサイエンス研究所 研究開発ユニット長 平田潤

東海大学 医学部 教授 西崎泰弘、

ファンケル総合研究所 所長 寺本祐之

5.ポスター展示

次世代スター研究員の発表を含む計14の研究案件のポスター展示を実施し、来場の関係者と研究員とで活発なコミュニケーションがおこなわれました。



※ポスター展示一覧（3.プレゼン発表を除く）

テーマ	参考情報
KW3110のメカニズムの解明と今後の研究	「乳酸菌Lacticaseibacillus paracasei KW3110」による軽症から中等症の花粉症症状の緩和を確認 2025年10月31日
オルガノイドによる新たな“腸ケア”の可能性の探索	世界初！キリンと東京大学が、ヒトiPS細胞由来小腸オルガノイドを用いて細胞老化により栄養素吸収が低下することを確認 2025年12月11日
“耐暑性ホップ”の開発	ホップの苗に高温・乾燥耐性を付与する技術を開発 気候変動に対応した持続可能なビール原料供給に貢献 2025年9月12日
PETケミカルリサイクルの取り組み	高効率・環境負荷低減を実現する、PETケミカルリサイクル技術を2件開発 2023年 KIRIN - キリンホールディングス株式会社 業界を超えた連携でケミカルリサイクルの原料を非食品用途PETへ拡大 2025年 KIRIN - キリンホールディングス株式会社
電気の力で減塩食品の塩味やうま味を増強する減塩サポート食器「エレキソルト」	電気の力で減塩食品の塩味やうま味を増強する減塩サポート食器「エレキソルト」が新商品の「カップ」とリニューアルした「スプーン」を9月9日（火）より販売開始 2025年9月9日
キリンビバレッジ午後の紅茶“アイ스티ーグラスボトル”の開発	「午後の紅茶」ブランドで採用されている「アイ스티ーグラスボトル」が「2025日本パッケージングコンテスト」で「適正包装賞」を受賞 2025年8月27日
新スゴ泡タップ～驚異の泡持ち比較展示～	「スプリングバレーブルワリー東京」全館リニューアル！ 2024年5月27日
マレーシアを中心とした東南アジアでの蚊媒介感染症課題への挑戦	独自素材「L.ラクトイス プラズマ」が新型コロナウイルス及びインフルエンザウイルスの増殖を抑制する研究成果をタイの国際学会で発表 2025年 KIRIN - キリンホールディングス株式会社
抗老化素材（キンミズヒキ、14-DHE）の開発	人の血液中における老化細胞定量法の確立とキンミズヒキ由来アグリモール類摂取による人での老化細胞除去作用の検証 2025年3月6日 白麹菌に含まれる成分が美肌機能に関わることを発見 2020年1月30日